

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月23日(火)

《偽善・独善を避けるために ～黙想の中での振り返り 私が痛ければ相手も痛い～》

今日の福音(マタイ 23:23 - 26)に出てくる『偽善』という言葉の意味は何でしょうか。簡単に言えば、「言葉と振る舞いが一致しないこと」、「本音と^{たてまえ}建前があまりにも違うこと」、「表と裏が一つではないこと」です。そのようなことを私たちは、『偽善』と言っています。漢字を見ると「偽りの善」と書きますね。つまり、「言葉や建前で善いことを言っても、それが本当の善になるためには、その人の中身も言葉と同じにならなくてはいけない」ということです。

『偽善』と似ている言葉に『^{どくぜん}独善』という言葉があります。『独善』の意味は、「客観的に見ないで、自分だけが正しいとってしてしまうこと」です。

ファリサイ派の人々や律法学者たちがイエス様から叱られたのは、この『偽善』と『独善』のためです。信者である私たちも、自分の中に偽善的なところがないか、独善的なところがないか、いつも振り返る必要があります。しかし、実際には、偽善者でない人、独善者でない人は、カトリック信者の中にはいません。なぜなら、私たちがいつも神様のみ言葉に接しているから、悪魔がそれを利用して、独善や偽善の罪を犯すように誘うからです。ですから、自分でも独善に陥っていないか、偽善者の姿を見せていないか分からなくなってしまうのです。

私たちが一番警戒しなくてはいけないことが、この『偽善』、『独善』だと思えます。自分が、『偽善』、『独善』に陥っていることに気付くのは本当に難しいことです。ある時には、善の言葉に感動して涙も流せます。しかしその涙で終わってしまい、実際には正反対の振る舞いを見せる場合も結構あるのです。このみ言葉は、特に私のように説教台で話さなければならない立場の者がいつも気をつけなければいけない言葉です。しかし、負けてしまう場合も結構あります。自分の中を覗いて見ると、この罪に陥っていることを認めなければならない場合もあります。

皆様もご存知だと思うのですが、韓国には、数年前に亡くなられた^{キム スファン}金 壽煥 ステファノという有名な枢機卿がいらっしゃいました。彼は、宗教を超えて、韓国の全国民から尊敬を受けていました。彼が亡くなった時には、韓国中で彼の死を偲ぶ行事が行われました。仏教のお寺でも行われて、人々が本当に別れを悲しむ心を表しました。その^{キム スファン}金 壽煥 ステファノ枢機卿の回顧録を読みますと、このような話があります。彼が35歳頃のまだ若い時の話です。

“ある時彼は、司牧の用事で、電車に乗って出かけました。その途中、窓から田舎の夕暮れの景色が見えました。昔のことですから、それぞれの小さい家の煙突から夕御飯を炊いている煙が上がっていました。それを見て彼は、「私も平凡な家庭を持って、父親になっていればどのくらい幸せだろう。」という思いになったそうです。”

これは、彼の若い頃の孤独感を表した話です。

彼がなぜ人々からそんなに尊敬されたかと言いますと、その理由はただ一つです。自分の弱さを認める謙遜な人だったからです。「信仰とは、頭から胸までの旅です。私は、頭から胸まで到着するのに70年かかりました。」という告白、「私はいろいろな善いこと、イエス様のみ言葉を人々に話しました。しかし、自分で実践したことはほとんどありませんでした。」という告白。そのような、自分の弱さをはっきり認める心に、周りの人が感動したのです。素晴らしいことをたくさんなさった方で、全国民から尊敬されていたのに、その姿はいつも謙遜でした。そして自分に対して「馬鹿」という表現を使っていました。「私はいつも頭と心が別々に動いています。だから、私は本当に馬鹿です。」という告白をしています。60歳を過ぎてからずっと、どこへ行っても歌うように「私は馬鹿です。」と言いつづけていた、という話があります。そのような告白から、その方がどのくらい黙想の中で、祈りの中で、自分のことを振り返っていたかが、分かります。

『独善』、『偽善』の危険を避けるためには、祈りの中、黙想の中で自分をよく見るしかありません。「私が痛ければ相手も痛いのだろう。」という思いを基本に、「このような話を聞いたら私も心が痛いのに、なぜ私の口からこのような話が出てしまったのか。」という簡単な振り返りをする事です。そこからもう一步進むことが、私たちに与えられた課題ではないかと思えます。

いつも思うのですが、偉い人も、偉くないと言われている人も、恰好良いと言われている人も、恰好良くないと言われている人も、神様の目から見ればみんな同じなのです。だから、私たちは自分を謙遜なものとし、相手を受け入れようとする自発的な心の開きが必要なのではないかと思えます。

今日の福音以外に、もう一つ申し上げます。これは皆様に当てはまる話だと思えます。人生には、避けられないいろいろな峠があります。乗り越えなくてはいけないのに怖くて全然前が見えない時、どうすればよいかと焦り、怖がるばかりの時が何回もあります。そのような時こそ、これはチャンスだと思ってください。信仰を深めるための本当に恵みあふれるチャンスだと思ってください。そのような気持ちになって受け取ることができれば、どんな事があっても理解できます。消化ができます。感謝ができます。もしそういうことがなくて、良い時に賛美するだけならば、意味がありません。誰が見てもこの人は困っている、と思える時に笑顔を見せながら感謝の姿を見せてください。それが、2000年前に神様が私たちに強く教えられたことだと私は思います。そういう時には、人間的な心を超えてください。超えられる方に恵みが体験されます。

ありがとうございました。